



2021 令和3年 4

誌面に掲載した記事・写真等の無断複製・転載等はお断りします。お問い合わせ・ご意見は狛江市政策室へ

発行 ● 狛江市政策室
〒201-8585 狛江市和泉本町 1-1-5
☎ 3430-1111 FAX3430-6870
Email=wacco@city.komae.lg.jp

編集・制作 ● 特定非営利活動法人 k-press
〒201-0003 狛江市和泉本町1-35-3
ル・ミリオン・イイダ3階A号
☎ 3430-6617 FAX3430-6743

市民スポーツを支える幅広い活動

特定非営利活動法人 狛江市体育協会



狛江市民まつりのスポーツ祭(令和元年)

前身は昭和43年発足

特定非営利活動法人狛江市体育協会(秋元恵司会長、和泉本町3-25-1狛江市民総合体育館内)は、市内の陸上や球技、武道、ニュースポーツなど21のスポーツ団体で構成、会員は約3,200人を数える。

市のスポーツやレクリエーション、健康増進などの事業の中心的存在として、スポーツ大会の企画・運営、指導者の養成・派遣、団体の育成や相互の連絡調整、スポーツ情報の収集・告知など、幅広い活動を行っている。最近ではシニアを対象としたニュースポーツの普及にも取り組んでいる。

同協会は、狛江町時代に設立された体育団体連絡協議会を母体として昭和43年に野球・スキー・卓球・バドミントン・ゴルフ・少年剣道・軟式テニスの7団体で「狛江町体育協会」として発足、45年の市制施行に伴って現在の名称に改められた。

60年に東京都体育協会に、62年には都下体育協会連合会(現・東京都市町村体育協会連合会)に加盟した。61年の狛江市民総合体育館の完成に伴って同館内に事務所を開設した。平成2年から狛江市民スポーツレクリエーション・フェスティバル、15年から狛江市民スポーツ大会を市の委託事業として催している。

体育施設を管理運営

18年に特定非営利活動法人の認可を受けた。21年度に狛江市体育施設の指定管理者となり、東京アスレティッククラブと共同で、市内のスポーツ施設10カ所の管理運営にあたっている。加盟団体から1人以上の理事を出して毎月理事会と運営委員会を開き、さまざまな事業を実施している。

毎年、狛江市民スポーツ大会、ジュニア育成地域推進事業とシニアスポーツ振興事業、市民まつりと狛江市スポーツ事業への参加・協力のほ

か、パラスポーツ普及促進事業に力を入れている。生涯スポーツ社会の実現に向けて、気軽にスポーツに参加するきっかけ作りとして令和元年からバドミントンと卓球の連続教室を年3回、初級、中級とレベルに合わせて催し、技術指導にも取り組んでいる。

市の委託を受けたパラスポーツ普及運動としては、ブラインドサッカー、車いすバスケット、ボッチャなどの大会観戦を行うほか、昨年12月には東京2020パラリンピック

の車いすフェンシング日本代表の有力候補で狛江第六小学校出身の笹島貴明さんを招いて講演会を催すなど、パラリンピックを盛り上げる活動も行っている。オリンピックが開催される場合は、7月に予定されている聖火リレーの安全な実施に向けて裏方を務める。

元気な市民が多い街に

昨年から新型コロナウイルス感染症拡大予防のため



▷|◁
新連載

大会やイベントが中止になったり、令和元年の台風で多摩川緑地公園グラウンドなど体育施設の一部の利用が制限されるなど、各団体の活動の規模が縮小された。その影響に加え、加盟団体の会員の高齢化などもあり、登録会員が減少している。

秋元会長は「最近のスポーツは『する』だけでなく、『見る・支援する』という要素が加わ

っている。体協としても、市民のスポーツの裾野を広げ、多くの市民の要望をサポートしていきたい。コロナ禍はまだ続くが、家で簡単にできる体操やストレッチなどの普及に努めたり、会員を増やす施策に取り組み、生涯スポーツの普及・推進を進めて、元気な市民が多い街にしていきたい」と話している。

問い合わせ ☎3480-6211 狛江市体育協会。



笹島貴明さんの講演会。笹島さん(前列左から2人目)と体協役員ら

市民生活を支え、市民同士の交流・連携に貢献する公益的な活動を行っている法人を紹介します。

良質で多彩な公演に人気

一般財団法人狛江市文化振興事業団(元和泉1-2-1)は、平成7年のエコルマホールの開設に合わせて設立され、狛江市民や地域社会の文化の向上と市民福祉の増進を図り、豊かな市民生活の形成に寄与することを目的としている。

18年度から指定管理者としてエコルマホールの管理・運営を行っており、23年に一般財団法人に移行した。

エコルマホールは音楽や演劇が楽しめる客席数728席の本格的なホールで、同事業団では、プロを招く鑑賞型の公演を大きな柱に位置付け、時代の流れと市民ニーズに合わせた自主事業公演を行っている。出演者との直接交渉など努力の結果、都心のホールに比べて入場料を低く抑えた良質の公演が多く、人気が高い。



絵手紙散策マップ

エコルマ運営を柱に音楽、

一般財団法人 狛江市文化振興事業団



エコルマホールでの市制50周年記念コンサート

また、プロとステージを共有できる参加公演や親子向け公演、鑑賞公演に付随した青少年向けプレ・コンサート、公開リハーサルなど、次代の観客育成にも力を注いでいる。

さらに、市民と協働して行う自主制作型の公演に積極的に取り組み、市内在住の音楽家などが出演する「エコルマ・アンサンブルコンサート」、多くの市民がホールに親しむ「ふらっとエコルマ、オープンハウス」やワークショップなどを催すほか、「ほっとライブ」と題し、気軽に音楽に触れられるロビーコンサートなどを催している。

ただ、エコルマホールはことし9月から令和4年12月まで大規模改修工事が行われるため、その間はホール以外での公演を予定している。

コロナ禍の芸術家支援

市内の芸術文化団体や若手芸術家などの活動を手助けする文化芸術支援事業では、ジャズや太鼓、合唱、邦楽などの団体がコンサートを催している。

コロナ禍の昨年から今年にかけて、活動を制限され

ているプロアーティストを支援するため、狛江市文化芸術活動支援奨励金の募集を行った。文学、音楽、美術、写真、演劇、映像、伝統芸能など幅広い分野から50件81人の応募があり、奨励金を交付された42件70人が製作した作品をYouTubeで配信している。

芸術・文化の普及を目的とした会員制システム「倶楽部E」は、年会費1,500円で事業団主催の公演チケットの割引や優先販売・予約などの特典を受けられる。現在約800人が登録、このうち6割を狛江市民が占める。また、自主公演などの運営を手伝うボランティア組織「エコルマサポーターズ」があり、現在約20人が登録している。

音楽の街と絵手紙の事業

「音楽の街-狛江」構想に基づいた事業や「絵手紙発祥の地-狛江」の各事業を通じて狛江市の魅力発信などを手がけている。市民や関係団体が参画して事業を展開しており、活動の充実を図っている。

「音楽の街-狛江」推進事業は、音楽の街-狛江エ

絵手紙事業

コルマ企画委員会と協働で駅前ライブ、学校公演、市役所ロビーコンサート、保育園などでのエリアコンサートなどを催している。それに加え、市内の小・中学校の児童・生徒の音楽活動の支援、音楽を通じた地域の活性化や文化の振興、次世代に向けた人材育成など音楽活動の活性化を目指した事業を実施している。また、市内で催される音楽祭を主催したり、開催に協力している。

「絵手紙発祥の地-狛江」事業では、「絵手紙発祥の地-狛江」実行委員会と協働で絵手紙に関するイベントを企画・開催している。定期的に開催する絵手紙教室5回連続講座、絵手紙ひろばに加え、小・中学校や高齢者福祉施設へ講師を派遣し、市内に絵手紙文化を広めている。また、スタンプラリーを楽しみながら市内各所の絵手紙をめぐる「絵手紙散策マップ」を発行。絵手紙を通じた文化の振興に加え、観光や産業の振興も視野に入れた事業を展開している。

事業団は「新型コロナウイルス感染症の影響は大きいですが、感染対策に留意し、創意工夫しながら継続的に事業を行っています。改修工事でホールはしばらく休館しますが、リニューアルオープンに備えて準備を進めていきます」と話している。

問い合わせ ☎3430-4106 狛江市文化振興事業団。